

## 主旨説明

伝統的構法の設計法作成および性能検証実験検討委員会・委員長 鈴木 祥之  
検討委員会補助事業者 大江 忍（NPO 法人 緑の列島ネットワーク理事長）

地域の気候・風土等に適応して発展・継承されてきた伝統的構法木造建築物は、その良さが再認識され、近年、ますます注目されるようになってきました。

伝統的構法は、建築基準法の木造に関する仕様規定を満足しないこともあり、2000年建築基準法改正によって、耐久性の規定を除いた仕様規定を適用除外できる計算法として導入された限界耐力計算のもとに確認申請がなされてきました。しかし、2007年の建築基準法改正による建築確認・審査の厳格化によって、4号建築物相当の住宅でも限界耐力計算による設計では、構造安定性を確認するための多くの検討項目や構造計算適合性判定などがあり、確認申請などが、現在、難しい状況におかれています。この伝統的構法の危機的状況を打開すべく、伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会では、設計法部会、実験検証部会、構法・歴史部会、材料部会の4つの部会を設けて、石場建て構法を含む伝統的構法木造建築物の設計法について検討を行い、実務者が使える設計法を確立することを目的として活動してきています。

本講演会「知恵と工夫の設計—伝統建築に学ぶ」では、まず、検討委員会で検討を行っている「伝統構法」の構造的な良さを生かした伝統的構法木造建築物の設計法の考え方を紹介します。検討中の3つの設計法

- 1) 限界耐力計算によらず比較的簡易な計算に基づく「標準設計法」
  - 2) 伝統的構法の地域性にも適応できるよう限界耐力計算同等の計算を用いる「詳細設計法」
  - 3) より高度な時刻歴応答解析を用いて、あらゆる建物に適応できる「汎用設計法」
- について、それぞれの設計法の考え方や概要を紹介します。

次に、構法・歴史部会では、日本全国の重要文化財等の伝統建築を多数調査し、江戸時代から明治期における建築技術を詳細に把握してきました。これらの調査から、全国各地の伝統建築の構法的な特徴や各建物にこめられた当時の大工の知恵と工夫について紹介します。また、伝統的構法を将来にわたって使っていくうえで事例から学ぶことがたくさんあります。学んだ知見を具体的に紹介するとともに、これからの伝統的構法を提案します。なお、「伝統構法」や「伝統的構法」のとらえ方は人によって異なっていると思われます。将来にわたって活かし、使える「伝統的構法」の定義を検討しました。その考え方をご紹介します。

伝統的構法の設計法の考え方やこれからの伝統的構法の提案等に、伝統的構法に携わっておられる方々から、ご意見を伺い、今後の設計法の構築に役立てていただきたいと思います。

検討委員会では、研究者や行政のみならず実務の方々とも一体となって、石場建てを含む伝統的構法の設計法の構築に真摯に取り組み、伝統的構法を未来につなげたいと考えております。